

桃李百韻

賦初何連歌「春されば」

捌 丹仙

初折表

発句 春されば弓なる浦やあらたしき 蘇生

脇 波の穂はしる曙の梅 丹仙

第三 磨る墨の香り長閑かに端座して 素蘭

四 名付親をば頼まれし幸 鞠

五 雄々しさを増して駆け行く秋の駒 晴雲

六 峡の細道草の絮飛ぶ 等人

七 ものの音のなべて鎮もり月明し 茶墨

八 手塗りの箱にしまふ能管 茉莉花

初折裏

一 たづね来し古き伝への陶の里 冬扇

二 何故か懐かし門々の顔 ぽぼな

三 不器用に注がれし酒の嬉しさに 真奈

四 空席ふたつ知らぬふりする 素蘭

五 シンデレラエキスプレスはまだ早い 素蘭

六 逃げてしまった手乗り文鳥 茉莉花

七 山際に塵ひとつなし秋のそら ぽぽな

八 露一点に凝りし芋の葉 馬客

九 群れ分けて時代祭の烏帽子行く 茶墨

十 名残の風炉に月を惜しみつ 真奈

十一 遙かなる異国の地より友迎ふ ぽぽな

十二 声掛け合つて揺らすブランコ 浮遊軒

十三 けはひなき苑に暮れなむ花の雨 蘇生

折端 にはたづみから亀の鳴くやら 千種

二折表

折立 朱に染むる泪もありし時鳥 丹仙

二 垣根によりて過ぐす短夜 茶墨

三 髪長きをさなじみの匂ひたち 明子

四 命の一字こめかみに見る 巴人

五 欄干の下の滾つ瀬はやるらむ 梵論

六 タベは翼のかたき折鶴 彩

- 七 鐘冴えて大堂は影伸ばしたる 馬客
- 八 意思表示する枯野ダイ・イン 千種
- 九 にしひがし子らのまなこは澄みてをり 茉莉花
- 十 不思議の国の入り口はどこ 素蘭
- 十一 宇宙への旅を占ふトランプに 西風
- 十二 ひっくり返つて笑ふ山々 茉莉花
- 十三 春の月長屋の衆に愛でられて 明子
- 十四 釣りの講釈聞く目借時 冬扇

二折裏

- 一 ワッペンのロゴカラフルにデイバッグ 茉莉花
- 二 マメを潰した新品の靴 百合
- 三 漱石の墓には猫も眠ってる 茉莉花
- 四 三味をつまびく門付けの瞽女 西風
- 五 味噌汁の香り漂ふ夕間暮れ ぽぽな
- 六 白手拭の揺るる芋畑 冬扇
- 七 望月の団子離さずいやいやと 馬客
- 八 酔ひも回らず語る夜長衆 百合

- 九 竿上げて波を枕に微睡まむ 蘇生
- 十 半時の間に栄え廃るる 茶墨
- 十一 歓声に応へスーパーサブ起用 千種
- 十二 星形クッキーつまむうららか 真奈
- 十三 何処にか木魂眠れる花の森 千種
- 折端 伏流はるか温むせせらぎ 蘇生

三折表

- 折立 神の手の被ふがごとし初紅葉 茉莉花
- 二 清めし庭に立待の月 寂仙
- 三 つれづれに秋のあはれをしたためて ぽぼな
- 四 消印なきまま届きたる文 冬扇
- 五 今もなほやはらかき髪目のあたり 白馬
- 六 こだはり解る匂ひゆかしき 素人
- 七 緞帳の下りて舞台の転回し 茉莉花
- 八 焼け跡に聞く青年の歌 冬扇
- 九 朝堀りの筈どさと届けられ 明子
- 十 祭支度のレシピいろいろ 鞠

- 十一 俄雨さけて軒借る仁王門 馬客
- 十二 湖水をわたる入相の鐘 素蘭
- 十三 カザルスの鳥はピースと啼いてをり 茉莉花
- 十四 遠き国でも人は人なれ 白馬

三折裏

- 一 莫塵一枚木太刀一振り携へて 茉莉花
- 二 古びたランプ吊す湯の小屋 浮遊軒
- 三 自転車のサドル覆ひてこぼれ萩 茶墨
- 四 指笛やうやう吹けし待宵 真奈
- 五 暮敵の新走りもて訪ね来し 茉莉花
- 六 フェアにいかうとげんまんをする 茶墨
- 七 式場を捜す約束交はすらむ 浮遊軒
- 八 妖精つひに知恵の実をもぐ 茉莉花
- 九 よろこびの島にピアノの音流れ ぼぼな
- 十 幼子乗せて天翔ける舟 冬扇
- 十一 鳥雲に遠き戦の便り聞き 浮遊軒
- 十二 柔東風吹きて転がりし桶 茉莉花

十三 主と従者遊ぶ水無瀬の花万朶

素蘭

折端 衰はいらぬと別れ霜ふむ

蘇生

名残表

折立 震災を悼むともしび雪地蔵

丹仙

二 六甲おろし遠汽笛鳴る

真奈

三 颯爽と応援の旗打ち振りて

浮遊軒

四 夢な忘れそ明日は旅立ち

庚申堂

五 年たけてまた相見むと交はす文

馬客

六 愛の連結ゆるやかに解き

あずき

七 思ひきりショートカットで街を行く

ぽぼな

八 二分で決める祝賀スピーチ

茉莉花

九 これがまあ満漢全席てふものよ

冬扇

十 右脳悩ます大魔方陣

茶墨

十一 どうしても心のうちはあかせぬと

浮遊軒

十二 残る蛩は海をめざして

真奈

十三 星屑をひき連れ昇る月の舟

真奈

十四 飛天の楽の響くさやけさ

千種

名残裏

- 一 半世紀語るつれづれ去来の忌 茉莉花
- 二 やむことのなき戦乱に世は 蘇生
- 三 電音の見知らぬ友に励まされ 千種
- 四 力をも入れず生きる言の葉 真奈
- 五 踏みしめる土軟らかに春兆す 茉莉花
- 六 峠の茶屋の名代草餅 千種
- 七 高みへと誘ふ花のかがよひて 明子
- 拳句 百千の鳥ぞ永遠に囀る 丹仙

平成十五年二月四日起首 三月三十日満尾

祝桃李百韻

丹仙

立春起首百韻歌

表裏有心賞月花

清明踏破千尋溪

桃李不言恋淡霞